

平成27年度 第2回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 平成28年1月13日(水) 午後1時30分～3時30分

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委 員) 高橋 義雄 (筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授)《会 長》
勝亦 紘一 ((公財)豊田市体育協会 副会長)《副会長》
兵藤 おさみ (豊田市スポーツ推進委員協議会 副会長)
本多 重之 ((一社)豊田青年会議所 副理事長)
徳田 康 ((公財)愛知県サッカー協会 専務理事)
桑田 厚司 (愛知県ラグビーフットボール協会 理事長)
町田 淳 ((株)名古屋グランパスエイト マーケティング部長)
里園 友紀 (エフエムとよた(株) ラジオラヴィートパーソナリティ)
北垣 啓子 (公募委員)

【欠席者】 (委 員) 高橋 繁浩 (中京大学スポーツ科学部 競技スポーツ科教授)
熊谷 謙蔵 (豊田市区長会 理事)
藪押 光市 (豊田商工会議所 事務局長)
徳増 年彦 ((株)豊田スタジアム 取締役営業部部長)
中井 久美 (豊田まちづくり(株) 地域事業部リーダー)
廣瀬 佳司 (トヨタ自動車(株)人事部 トヨタスポーツ強化グループ主幹)

【事務局】 大谷 哲也 (教育行政部副部長) 伊藤 勝介 (スポーツ課長)
杉山 寿美雄 (スポーツ課副課長) 梅村 靖之 (スポーツ課担当長)
畔柳 隆二 (スポーツ課担当長) 山本 美晴 (スポーツ課主事)

【傍聴人】 0人

【次 第】 1 審議会委員アンケートまとめ
2 スポーツコミッションの機能イメージ

【会議録（議題部分のみ）】

■議題（１）審議会委員アンケートまとめ

事務局：資料に基づき説明（資料１）

会 長：多くのスポーツコミッションがしなければいけないであろう機能については、とても必要であると回答をいただいている。スポーツ大会の誘致、参加交流型スポーツイベント、地域密着型プロスポーツ振興については、現在豊田市がすでに実施しており馴染みがあるため、更に力を入れる必要があると感じる方が多いのではないかと感じる。

一方、スポーツ合宿やアウトドアスポーツ商品化については、今後取り組んでいく分野であり馴染みがないため、力を入れて取り組むべきであることと感じてはいるが、強くは推すことができないと感じている方がいるのではないかと感じる。

いずれにせよ、市外から多くの方に来ていただく取組であるため、どの取組が良いか悪いかということではないが、委員のみなさんは力をいれるべきであると感じているのではないかと感じた。

事務局の説明事項について、ご意見ご質問等あれば。

委員：アウトドアスポーツについては馴染みがないが、豊田市は自然が多いためアウトドアスポーツを切り口としていくことは非常に面白い取組になるのではないかと。

会長：豊田市は資源が多いため、アウトドアスポーツについては掘り出し方次第であるかと思う。

委員：大きな大会は実施済みであるため、身近な大会から力を入れるべきだと思う。個人的に、アウトドアスポーツの商品化は馴染みやすいかと思う。

会長：アウトドアスポーツの商品化へ、推進体制など具体的な動きが伴わなければならないと思う。

委員：地域の人の声を聴くということで、市民が実際何を求めているのかが分かる。総合型地域スポーツクラブとして実施できることは実施していく必要があると感じた。

会長：スポーツコミッションが活性化すると総合型地域スポーツクラブは収入源となるイベントと絡んでいけるのではないかと感じる。それについてどう思われるか。

委員：総合型地域スポーツクラブでは、大学などと連携をとり地元の有名選手と触れ合うようなことができるイベントと関わっていくことができれば、総合型地域スポーツとしても収入源にもなる。また、そのようなイベントを通して、子どもから大人までスポーツに関わっていない人に対して、スポーツに興味を持ってもらい、ファンが増えたり、実際にスポーツをする人が増えたりすることができたら良いと思う。

会長：色々なイベントが立ち上がると、各協会で実施していたイベントは総合型地域スポーツクラブが実施することとなると思う。その際、市外県外から参加者が来るようなイベントや宿泊先との連携も総合型地域スポーツクラブがとることができるようになれば良いと思う。

委員：豊田市には多くの総合型地域スポーツクラブがあるため、多くの方に利用してもらいたい。

委員：広い視野で全てのスポーツを対象に考えることも大事ではあるが、２０１９年のラグビーワールドカップに向けて、ラグビー協会としては手一杯な状況である。幼児から高齢者まで、どの年齢をターゲットにして取り組む必要があるのか、また、２０１９年に向けてラグビーの人気をどのように盛り上げていくかを考えている。スポーツコミッションはそれぞれの視点からすべて必要であると思う。例えば、ラグビーの合宿誘致に取り組むとすると、ラグビーの特性上、愛知県では標高が低すぎて難しい。つまり、各スポーツには各々特性があり、その特性に合った地域がある。アウトドアスポーツについても、どのような場所でどのよう

なスポーツができるか現在不明である。また、イベントやプロスポーツに関しても、それぞれの視点から行政や各競技団体の方々と情報交換をしながら提案をしていく場面が無ければ良い情報が出てこないと思う。

会長：各競技団体や組織で持っている情報を組み合わせ、協力し合うことで、より大きなものにしていくことが大事である。

委員：規模も大きくなればそれだけ人が集まり、収入も増えるという利点もある。

委員：スポーツ大会誘致や既に豊田市で開催している大会については、市民の認識は高いとは思いますが、「知っている」だけで終わってしまう。今回のスポーツコミッションでは新たな取り組みを仕掛けていかないと市民は注目しないと思う。豊田市は春夏秋冬で楽しめる観光や行事が行われているため、それにスポーツを組み合わせた豊田市ならではの取り組みをすれば豊田市スポーツコミッションの看板となると思う。まずは「幹」を明確にする必要がある。スポーツコミッションの多くの分野に取り組みれば、市民もスポーツコミッションの考えや取り組みの根本にあるものが分からなくなってしまうと思う。スポーツコミッション各分野の中で、豊田市がメインとなるものを決めて、それに枝分かれしているようなイメージの取り組みで行ったほうが市民に理解されやすいと思う。

足助地区では豊田市で初めて猪肉の加工場ができたということもあるため、例えばそれにマラソンを組み合わせ「ジビエ×マラソン」のイベントを実施するなど、四季折々でスポーツコミッションの取り組みをすればと思う。

個人的に、大人になってスポーツに関わっていなかったが、イベントでプロ選手と触れ合う機会があり興味が湧いた。そのため、豊田スタジアムまで試合を観戦しに行き、選手がピッチで頑張る姿を見て自分も頑張ろうと思えた。

地域密着型プロスポーツの振興のアイディアの「夢先生」のように、夢、目的、努力の大切さは子どもたちの心に深くささっていると思う。豊田スタジアムで見せる選手の真剣な姿は、子どもたちにとっても大事なことだと思う。

例えば、駅伝は誰もが熱くなると思うので、競技と今まで縁がない人でも、選手が頑張っている姿を見れば応援するという姿勢、意識につながると思う。豊田市にも素晴らしい選手がたくさんいるため、まちの観光資源と組み合わせ「幹」となるものを作るべきだと思う。

会長：豊田市スポーツコミッションを始める際に、ただ単に浅い事業をすれば良いというわけではなく、豊田市スポーツコミッションとは何なのか、考え方によっては豊田市とはどのようなまちなのかということの方が大事になってくる。そのため、豊田市では何を「核」としたスポーツコミッションにするというのは必ず議論しなければならないことであると思う。

委員：豊田市のスポーツのあり方や姿は大事なことだと思う。サッカーでは、スポーツを楽しむ「エンjoy」から競技性の高い「トップ」まで考えおり、大会運営やピッチ上での指導についても長い時間実施してきた。一方で、地域の活性化を考えた場合、スポーツを楽しむと同時にスポーツで何ができるかは考えなければならない。例えば、総合型地域スポーツクラブでは子どもから大人までスポーツを教えていると思う。それは非常に大事なことであると思うが、スポーツを指導する人材の他に、スポーツを通して何ができるのかを考えることができる人材も必要になると思う。日本のスポーツの在り方として、運営者や経営者が会員である地域の人にサービスを与えている。ヨーロッパでは、スポーツクラブの会員が自ら考えて何か実施している。会員自らが考え実施するというプロセスが地域の活性化に向けた下地にもなる

と思うため、そのような仕組みは必ず必要だと思う。

会長：そのような人材が育つ仕組みを考えた場合、大学が必要な役割を担うと思う。大学選手にさらに地域で活躍してもらおうということも大事になってくると思う。

委員：体育協会として行政とさらに協力して豊田市のスポーツ振興に取り組むかマネジメントしていきたい。

会長：スポーツコミッションは新しい組織のため、新しい人材を引っ張る手も考えられる。要は、スポーツコミッションを組織運営していくことについては、様々な可能性があり、様々なアイデアがある。

■議題（２）スポーツコミッションの機能イメージ

事務局：資料に基づき説明（資料２ 地区別のスポーツツーリズムの現状と推進課題）

会長：地区別のスポーツツーリズムの現状と推進課題について、意見質問等あれば。

会長：下山地区では三河湖周辺で、サイクリング、アウトドアスポーツで地域振興がなされているが、どのような組織が実施運営しているのか。

事務局：組織は設置されておらず、岡崎市や安城市など市外の自転車愛好家が自ら下山地区で練習、宿泊をしている。

会長：旭地区での夏季スポーツ合宿受入制度については、組織で取り組んでいる事業なのか。

事務局：実施主体は旅館である。以前、行政と旅館が協議し6月～9月平日限定という条件で、スポーツ合宿のための優先予約ができるような仕組みとした。旭地区と小原地区はこの仕組みで行っており、旅館側が責任を持ち、取り組んでいる。まちなかの体育施設は、平日においても利用者が多いため旭地区や小原地区のような仕組みをとっていない。

会長：合併していない地区についてはどのような運営をしているのか。

事務局：合併地区も含め、各地区で状況が異なるため旭地区や小原地区のような運営をする地区もあれば、各地区の特性を活かして運営をしている地区もある。

事務局：資料に基づき説明（資料２ 豊田市におけるスポーツコミッション機能の検討）

会長：質問意見等お願いしたい。

委員：サッカー協会として大会誘致は行っているが、施設の問題がある。例えば、全日本少年大会は今年鹿児島県で実施したが、占有面積の料金について行政側の制度が統一されておらず、問題が発生した。全国大会は子どもの両親も含めた大勢が会場に訪れるため、大会開催者の収支という点は重要な問題になると思う。また、名古屋市では事業実施にあたり助成金が出ず、協会として運営が難しい事業もある。要は、各団体や各協会が事業の実施をする上で、利益が発生するような助成など制度整備をすれば誘致はしやすくなると思う。

会長：サッカーについては協会が積極的に動いている。そのため、協会を始め主催者に対しに利益が出せるかが大事となってくる。また、競技団体が行政の担当者と個人的なネットワークで何とか事業をやりくりしている実態もあると思うが、それは非常に危険な状態である。行政の担当者の異動によって、事業運営ができなくなるといった恐れもある。そのため、協会や団体が事業実施しやすいような制度の整備という点も必要であると思う。

委員：第1回目に出席できなかったため、本日の議論の進め方を確認させてほしい。スポーツコミッションの機能について事務局から説明があったが、本日はそれについての議論という認識でよいのか。

会長：第1回目では豊田市としてスポーツコミッションをどう考えているのかを議論した。スポーツコミッションの事業としては5種類あり、それを事業化していくには8つの機能がある。本日は、豊田市ではその8つの機能をどのように運営していくかについて議論をしている。

委員：スポーツコミッションの5種類全てを実施するのか。豊田市として何をすべきかを今後検討するために、5種類を委員で共有したうえで議論していくのか。

会長：スポーツコミッションの5種類や各地域にはそれぞれの特色と濃淡がある。その特色、濃淡を情報共有した上で、実際どのような機能が豊田市としては良いかについて議論を深めていく。

委員：スポーツコミッションの目的というのとは何なのか。

会長：地域以外の人たちが集まることで、スポーツを通じて地域経済の活性化を図る。つまり、より多くの人たちが豊田市に集まる仕組みをスポーツでつくるということが目的である。

委員：そのような仕組みはいつごろから始めるのか。

事務局：2か年で実施する。豊田市にはスポーツ施設や観光資源もあり、ラグビーワールドカップなど大きな大会もあるが、豊田市としてスポーツを通じた戦略的な取組をする組織がない。そのため、スポーツとまちづくり、観光など一体的に結び付ける組織が必要なのではないかということで、豊田市の特性や資源の活用方法について、豊田市版スポーツコミッションのあり方を各分野の意見を伺い束ねたいということが、そもそもの始まりである。

今年度については、スポーツコミッションの形態や先進事例や豊田市の資源などを紹介し、豊田市としての方向性を概念的にまとめたい。来年度は組織化の必要性を含め、どのような仕組みを整備する必要があるのかといったことをまとめる予定である。

なお、本日の議論については、豊田市版スポーツコミッションの可能性について提案をもらい、まとめていく。

委員：スポーツコミッションの一番の目的は、市外の人も含め、多くの人に豊田市へ来てもらうことで良いのか。

事務局：スポーツを通じて、地域の活性化や街づくりにどのように戦略的に寄与していくかが目的。

会長：国では昨年スポーツ庁が設置された。今年から国ではスポーツと産業を関連させた研究会が始まっているという背景もある。

委員：スポーツコミッションには8つの機能があるが、大きく3つに分かれると思う。「大会・キャンプ誘致、大会主催者サポート、大会参加者・観戦者おもてなし」機能については、2019年のラグビーワールドカップに向けてどのように取り組んでいくべきかを考えていく必要があると思う。

「スポーツ合宿受入窓口、募集型スポーツ合宿企画・運営機能、募集型大会・企画運営」機能については、合併地区では体育施設の受け入れキャパシティが限られている。そのため、トヨタ自動車や中京大学などスポーツ施設が整っている企業や大学と連携を強化していく必要がある。また、合宿を実施した後に大会を開催することも良いと思う。例えば、大学生が高校生を指導すれば、高校生のスキルアップにもつながると思うし、大学側からすれば選手の募集にもつながると思う。

アウトドアスポーツに関しては、オートスポーツについて豊田市に環境があるのであればそれを活用し、進めていくべきであると思う。

委員：自分で豊田市の地域を歩いてみた。行政として、ハイキングコースの看板など周知努力はし

ているが、実際に市民に聞いてみると知らない人が多い。そのため、スポーツコミッションをもっと市民に周知するというのも手段の一つであると思う。スポーツコミッションを検討する上では、地域社会を知るということが第一に大事であると思う。

また、下山地区についても調査してみたが、各団体をまとめあげるリーダーがないということは問題点としてあると思う。

周辺市も調査してみたが、豊田市は西三河周辺市と連携する必要があると思った。例えば、グランパスの試合では安城市からバスを出すなど工夫をしても良いかと思う。

新東名が開通することで、新城市とその周辺市は豊田市に来やすくなるため、それは戦略的に利用したほうが良い。それにより下山地区は活性化されるのではないか。

サイクリングロードについては、知立市、安城市、豊田市をつなげて実施するのも良いと思う。周辺市と連携をする際は、豊田市がリーダーとなってやるべきであると思う。

合宿については、陸上では冬場は砂浜や階段がある場所が合宿地として選ばれる傾向が多く、夏場は、涼しく、野山でクロスカントリーができ、近くに陸上トラックがあるという場所が選ばれる傾向がある。豊田市では、陸上に関して言えば、夏場であれば合宿誘致が可能であると思う。

会長：第1回審議会で網走市のことが出たが、豊田市のスポーツコミッションが豊田市だけに閉じず、西三河周辺市やその宿泊施設とも連携し、市外にも宿泊できるようなこともしなければいけないという意見でよいか。

委員：そうだ。

会長：例えば、砂浜のスポーツ施設という話であれば、ビーチで行うスポーツをサンドスポーツと呼んでいるが、ビーチバレーのコートを整備するなど新しいスポーツ施設の建築の提案をスポーツコミッションからしても良いかもしれないと思う。

また、例えば豊田市から豊田スタジアムまでの道の中で、産業展示会を開催するというのも考えられるし、要はスポーツに縛られないアイデアで仕組みを作り、豊田スタジアムを目的とせずに豊田市に来てもらうような状況を作れると一番良い。

委員：エコフルタウンや郷土資料館を始め、まちなかにも資源はあるが、まちなかの資源周辺に宿泊施設は少ないと思う。そのため、郊外の宿泊施設から体育施設までのシャトルバスを走らせるといった点もスポーツコミッションを取り組む上で考えたほうが良いと思う。

委員：中心市街地では発展した産業や大きな体育施設もあるが、山間地域も含めて豊田市であり、豊田市ならではのスポーツコミッションを考えるのであれば山間地域も含めて考えるべきだと思う。山間地域は、道路や移動手段が整備されていないなどハード面の安全性に不安があると思う。多くの人の受入れ体制を考えると、アウトドアスポーツ環境整備推進機能においては、新しい組織を置いて、ハード整備を取りまとめながらアウトドアスポーツの啓発活動も行っていくことが必要だと思う。

会長：国交省は、2027年のリニア開通を機に超巨大都市構想を考えている。豊田市はその構想の中に入っていると思われる。コンパクトシティであり、かつ里山がある豊田市は観光客からするととてもリーズナブルである。2027年に向けて、豊田市としてどうしていくべきなのかも考える必要がある。

事務局：委員から宿泊施設から体育施設までバスを運行することができれば良いという意見が出たが、実際に合併地区の宿泊施設では大型バスを所有しており、宿泊施設の営業努力の中で宿泊施

設から体育施設までバスを運行している。

また、第1回審議会では豊田市の名前がついている大会が無いとの意見があったが、調査した結果スカイホールで開催されている卓球大会で、「豊田スカイ全国オープンラージボール卓球大会」と名前が付けられている。

委員：名古屋の人からは豊田までは遠いと感じる人は多いと思う。そのような意識を変えていきたい。豊田市は魅力のあるまちということを発信できれば良いと思う。

会長：豊田市は中京大学をはじめ、トップレベルの指導者が多くいるため、さまざまな種目に対応できるという魅力があるため、そのような魅力を発信することも手段の一つであると思う。

委員：大会誘致をすれば、本当に市民は喜ぶのか。大会誘致をしたことで、交通渋滞など市民に迷惑をかけてしまうという悪影響も考えられるため、地域住民にも喜んでもらえるように取り組んでいかなければいけないと思う。また、豊田市に訪れた人にも豊田市に来て良かったと思えるようにする必要があると思う。大会誘致の成功の評価は、経済的な評価だけでなく、地域住民の思いも大事にして評価していくべきだと思う。

一方で、豊田スタジアムやスカイホールの大型体育施設は豊田市の強みであるため活かしていかなければならない。

会長：ある研究では、大きな大会を開くことで、犯罪が多発し交通渋滞が増えるなど悪影響が出るという調査結果もある。大きな大会を誘致し、開催すれば良いというわけではなく、地域住民がどれだけ充実するかも考えなければならない。

以上